

# 中川根ふる里通信

## = 第63号 =

中川根ふる里通信  
 昭和61年4月20日創刊  
 編集・発行・連絡先  
 〒428-0513  
 静岡県榛原郡中川根町上長尾  
 TEL. 0547-58-0015 859-6  
 郵便振替口座 00870-4-81556



生命を育む森。板取山付近 { 榛原川 } 分水嶺  
 { 大間川 }

# 新年明けまして

## おめでとつうございす

昨年秋から年末にかけて、大変寒い日が続いており、  
たが、新年を迎え、春が近くに來ているな——と感ずる日  
が多くなつてまいりました。

年末、年始のテレビを見ておりますと、東京からふる里へ回  
かう日、帰る日の高速道路、新幹線、飛行機等の混雑ぶりが  
トップニュースで盛んに放映されています。特に帰りの高速道  
路の渋滞には、「何とかならないものかな——。トイレはどうする  
のだろう。疲れるだろうな——。」とつくづく思います。日本全体  
が車社会になっている時代ですから、この様な現象もいた  
りたらないのでしょうか。

さて、こちらでは、年末、年始、町制40年記念を祝し、町内  
主要道路や役場を中心にイルミネーションを灯して、なかな  
か豪華な夜景となりました。ふる里へ帰つて來られた方々は  
ご覧になりましたか。しかし、数年前までは、こちらに家族  
づれで歸つて來て、お正月を過ごす人達が多勢いて、あちら  
の家、こちらの家にも自動車か止まっていた子供さんの声の  
あちこちに聞かえ、静かな山里もにぎやかになりました。こ  
こ二三年前からふる里でお正月を過ごす方が少なくなつて  
來ています。特に今年はずなかつたように感じました。

世界情勢も、誠におたやかなりぬ気配に包まれております  
が、戦争が始まらない様祈るばかりです。今年地球に火星  
が大接近すると言われています。今乙女座付近にいます  
が、乙女座は実りと平和のシンボルです。戦争星の遺名を

持つ火星をやさしくクミ込んでもらいたいものです。

中川根町の進路が発表されました。

「川根町・中川根町・本川根町」という三町枠組みを

「本川根町と合併」を目指します

断念し

島田市と榛北四町(金谷・川根・中川根・本川根)の合併問題  
で、中川根町は十七日、本川根町との二町合併を目指していく  
ことを、同日、本川根町で行われた川根三町からなる「三町振興  
協議会」の場で明らかにしました。

枠組みを巡って足踏みが続いていた同地域の合併は今後  
「本川根町・中川根町」の二町と、「島田市・金谷町・川根町」の  
一市二町の枠組みに分かれて話し合いが進んでいく方向と  
なりました。

この日の協議会の場で、杉山町長は「川根三町は生活や文化  
自然条件など密接なつながりがあり、今後も一緒にやうていき  
たいが、まとまらないのであれば、本川根町との二町で合併への  
事務を進めていくしかない」と述べた。

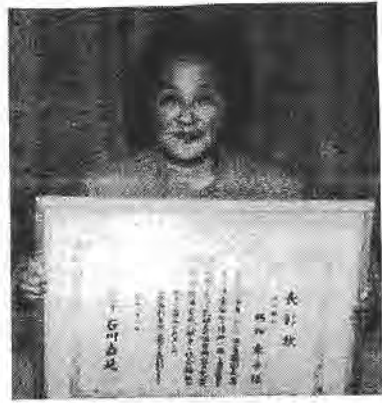
ここまでの協議で、中川根町との二町合併を目指す本川  
根町と、一市四町での合併を目指す川根町の主張が、かみ  
あわす。③三町を基軸とした合併を目指した中川根町の  
回答が焦点となつていきました。これからは、本川根町と  
の合併に向けて、実務を進めていくようにはなりません。

——一月十八日、毎日新聞、平成の大合併より——

先日「青森県、秋田県、岩手県は、やがて合併し、一つの自  
治体を組むことと目指す」との新聞記事を見た時、今後  
日本はどう進んで行くのだろうか、と考えさせられました。  
中川根町にも明るい未来があると信じてやみません。

おめでとつございます

# 堀畑章子さん 県知事表彰を受賞



十一月三日、堀畑章子さん(下泉)が社会福祉功労として県知事表彰を受けられました。

堀畑さんは、長年町保育園の保育さん、園長先生として、乳幼児の保育内容の充実や、後進の指導育成に献身し、社会福祉の増進に寄与したとして、表彰されたものです。

現在も堀畑さんは、子育て支援センター主催のすこやかサロンや町主催の親子なかよし広場などにおいて活躍されています。

堀畑さんの功績をご紹介します。

資性温厚にして誠実であり、その優しい人柄から、幼児はもとより、老若男女を問わず地域の多くの人から慕われるとともに、社会福祉に関する豊富な知識経験と指導力が高く評価され、広く住民の信望を得ております。

堀畑さんは昭和三三年五月中川根村に初めて開園された上長尾保育園の最初の保育士として採用されて以来、三三年十一月の長期にわたる活躍、平成三年三月に上長尾保育園園長として退職するまで町の保育行政の基礎を築いたばかりではなく、現在の町立四園、私立一園の充実した保育環境、独自の保育理論の確立に大きな貢献をいたしました。

堀畑さんの幼児に対する愛情の深さ、保育に対する熱意は人一倍大きく、常に子ども一人ひとりのことを考えて保育業務に専念されてまいりました。

幼児と接触するなかで、子供の話し言葉に特に興味を持ち、

「ことばノート」を作り言葉の採取に力を注ぎました。幼児の発想の奇抜さや豊かな感性が発見され、魅力あふれる言葉の数々が収集されました。一方母親にも我が子の言葉の採取を勧めました。こうして保育と母親による日々の努力の成果は、昭和四七年の「風はこうちの奥のトンネルの中に」のことは集を以降毎年のように冊子として発行されました。

子育て支援、母子保健に関する功績として誰からも愛される人柄と物事に熱心に取り組む姿勢が高い評価を受けていた堀畑さんは、惜しまれながら保育園を退職することになりました。期せずして町では子育てに悩む母親を支援する「すこやか、サロン事業」を開設することになり、堀畑さんに相談員をお願いすると、快く引き受けられ、保育士として培った豊富な知識経験をもとに、子育てに悩む若い母親達に接し、十年余にわたって良き相談相手として活躍されています。

※風はこうちの奥のトンネルの中に……こうち(河内川、長尾川)の水路橋の風を幼な児が感じたのだったと思いをこめて

町の鳥に制定された「ヤマセミ」



## 『ヤマセミ』が町の鳥です

町制40周年を記念し、町の鳥を制定しました。(町の木は杉、町の花はツツジです。)

町の鳥を募集したところ、応募の中で最も多くの票を獲得したことが選定の決定につながりました。

ヤマセミは、豊かな水と住む魚を必要とします。川の澄りや、魚類が少なくありません。ヤマセミがいつまでも生息できる環境をとりたいです。

## 原田耕作さんようぼう

そつてありがとうございよーた



ふる里夜話で健筆をふるわれ皆  
梯にも多くのペンが居り、ふる里通信  
を支えて下さった原田さんが、晩秋  
突然来世へ旅立たれました。

日、「おやじが急に亡くなってしまいました」との知らせが届き、  
耳を疑ったのですが、本当の事でした。

十一月五日、いつものように起き、午後からはセアカーに乗  
って下長尾方面に遊びに行き、夕食は食が進み、好きな  
人となりよーた。九十二歳という高齢にもかかわらず、常  
に前向きに精力を込めて生きられた方ですので、大勢の  
人が原田さんの死を悲しみ、今上の別れに集まって来りました。  
人はこの世に生を受けて産湯につかり、やがて死んで行  
く時にも風呂に入って気持ちよく旅立つのが最高な人生  
だと聞いた事があります。正に大往生、原田さんの生き方  
がそうさせたのだと思います。

七日にお葬式が行われました。弔辞の時、同級生の中野幸  
逸さんが、「原田君と私はどちらか先に死んだ時は弔辞を  
やる約束がしてあった。まさか私が送る人になろうとは。」  
と同級生で共に学び共に苦楽を分かち合った思い出を切々と  
語っておられました。(十月十八日に中野さんから届いたお手  
紙に、ふる里通信62号に手紙を載せた事への心縮云々の次  
に原田さんの事が書かれておりました。今回号に載せるつも

りでしたが、原田さんには読んでいただけず残念ですが、  
ご紹介させて頂いたと思います。——執筆常連の原田耕作さ  
んは「ふるさと夜話」三十三回にも及ぶのに前回の手紙に書  
きませんでした。山沢さん(編集者)の知り尽くした方であるか  
ら書く必要はないと考えたからです。原田さんは明治四十  
三年二月生れ、私は八月生れですから半年の兄貴に當る  
わけで、私よりも元気でありますし、良く書いていてく  
れており、感心して居ります。体力、気力もあり、脳天満  
点です。よく沢山の材料を集めて色々書いて下さり有  
難い事です。)そのほか、大勢の人におしよせ、見送られ  
て来世へ旅立っていったのです。私も今迄受けた数々の  
ご恩に「ありがとうございよーた」とお礼を申し、お別れを  
しました。

ふる里通信執筆者の原田さんへは号が発刊される度に  
郵送をしてから、お礼の長電話をするのが常でしたが、  
62号は直接瀬沢のお宅へ届けました。確か十月十四日(日)  
だったと思います。昼下り、お茶の花が咲きはじめに生垣  
を通して、原田さんの仕事場(本と読んだり書きものをした  
りする所)に着きました。原田さんは大変喜んで下さって  
わずか一時間足らずの時間でしたが、いろいろなお話しを  
しました。ふる里通信の事、原田さんと私との長い付き  
合いの事、そしてこの頃体力が衰えて来た事などでした。  
突然、原田さんが「節子さん、私には妹がいなかった。あなたと  
話していると、あなたに本当の妹のように思えるから、妹に  
なうてはくれんたろうか。」と言われました。私は「原田さ  
んの息子さんと同年だけ」といいですか。」と言うと、「私は  
息子一人と娘三人がいて、いろいろ面倒を見てくれるから、  
子供は充分、妹がほしいだよ。」との言葉に、私は「は

い妹になりすしより。妹は口うるさいかも知れないが、いいです。か。と意気統合して妹になる約束をしました。ふる里夜話34話のお願いもして別れさした。これが永遠の別れになるかも知らず……。迎之に来たくれた夫に「妹になつたよ」と話すと、「それはそれは」と言つて笑つておりました。わすかの曰々の流れの後訃報を聞くと、夫は「妹はちんと見送つてやらんといかんよ」と言つてくれました。

改めてふる里通信に原田さんが残して下さった足跡を紹介してみます。

第8号 ふる里紹介 瀬沢・平谷の巻  
第22号 平谷の流し焚

第28号 ふるさと夜話1話 カシ吉ヶ嶽九ひとカ持ち中野一族  
第29号 “ 第2話 智満寺の涅槃像と三津間渡の酒屋

第30号 “ 第3話 二本松峠の昔  
第31号 “ 第4話 釣屋根につぶされた本城の殿様

第32号 “ 第5話 青年団の製茶討論会  
第33号 “ 第6話 歩いた時代のお茶ものかたり

第34号 “ 第7話 伝統床しい平谷の「流し焚」と  
浄土の祭典下長尾の「百八焚」

第35号 “ 第8話 きつねの話  
第36号 “ 第9話 大井川の川瀬ものかたり

第37号 “ 第10話 堀之内の逸事事件と後日談  
第38号 “ 第11話 片足佐養の足伝さん

第39号 “ 第12話 大日峠水呑茶屋のおはさん  
第40号 “ 第13話 雪隠ものかたり

第41号 “ 第14話 こんばくの花  
第42号 “ 第15話 中川根の空を初めて飛行機が飛んだ時

第43号 “ 第16話 初めて電灯がついた時

第44号 ふるさと夜話 第17話 法螺吹き萬空の昔と今

第45号 “ 第18話 漬物いろいろ

第46号 “ 第19話 安政の大地震と川根

第47号 “ 第20話 写経と酒の効用

第48号 “ 第21話 「あのう」の「と」等の感動詞を考ふる

第49号 “ 第22話 墓石を傷つける石松信者

第50号 “ 第23話 天皇が生神であると言われた時代

第51号 “ 第24話 七十年前「君が代」を批判した  
小沢羽峯先生

第52号 “ 第25話 思い出の活動写真

第53号 “ 第26話 日月の石と隕石の話

第54号 “ 第27話 小学校卒業式の俳句の答辞と  
同級生杉本知峯の名句

第55号 特集 南アルプスと大井川 その3  
六十年前の二軒小屋探訪記より

第57号 ふるさと夜話 第28話 鼻連峠と峠道余談

第58号 “ 第29話 山村の餅牛菓とみ蔵とろろ

第59号 “ 第30話 笑顔も忘れて生きた私の話

第60号 “ 第31話 思い出の智満寺

第61号 “ 第32話 腹が立つと「百姓」と口走った男  
新茶の托鉢と年賀の青木葉納豆

第62号 “ 第33話 天狗と思つた奴傭

こうして見てみますと一冊の本にしたくなる様な重みのある夜話であると思ひます。独特の語り何らかのもの(日記書籍等)を基準に組み立てていく匠の泉の様によく話題永遠に続けられると思つて「次回号もお願いいたします」と言つて「わかりました、次回のメ切りはいつですか。」にすつかり

あまた之感もあり、それが、原田さんの生かいらにもなっていたとの事を聞きますと、「よかったです」との気持ちにもなります。

生涯愛してやまなかつた瀬沢の地、中川根の大地に帰った「原田さんの初筆、ふる里紹介「瀬沢平谷の巻」を再び載せさせていた、いただきます。

瀬平地区は大昔、境川が流れた跡を型どっている瀬沢地区、大井川の河岸段丘によつてつくられた平谷地区に別れております。又かつては西の渡、西又も瀬平地区で、現在の人が住んでおりません。

瀬沢という名からも沢(小川)が多く、エビラ沢、西沢、竹の花沢、野沢が集まり、杭田んほを形造り、やがて二つの沢になり境川に滝となつて流れ落ちておりました。

平谷は下長尾瀬平墓地の上の原、少しずつ段の下、かつて中の原、下の原、小田段、大井川に面した平谷といった地形をしていて、みごとな成茶園が続いています。

戸数六四戸の静かなたたずまいからは昔を憶ふ事は出来ませんが、かつては中川根村の中心地であり、産業文化の華開いた時期がありました。

◎村松嘉蔵翁とお茶  
 今から百二十年前明治三年より村松翁により茶園を開き、後約三町歩の成園を造り、取れたお茶は横浜へ、「川根(茶)商店」を出して売って、はまき川根茶の宣伝をした。又品質向上に務め、アメリカ向け輸出も手がけ、明治二六年、シカゴコロングス博覧会にて賞状をもらつてゐる。

◎新道(荷車道)建設作業  
 瀬平のルーツは西の渡、西又、北遠と西から来たらしいが、明治初期までの道は、河内川(境川)つたいに四十八度川を渡らなければならぬほどの悪路だった。村松翁の自費で平谷から原山(久保尾地区)まで荷車道を開く事

業を為し遂げられたのである。

★明治十一年、瀬沢平谷間開通

★明治三年と四年瀬沢と原山まで開通

◎陸路に加え舟路による瀬平の繁栄  
 道路開通により久保尾、周智、森町方面との行き来が盛んになり、瀬沢には続々と家が建てられ、一方平谷は高瀬舟、木材搬送、伐など通舟による物資の集散地となり数々の産業が発達した。

★松永医院開業、港尾ミニガミシン教習所、金沢運送店ほか、荷車運送業開業、植村牛乳店、旅館三軒、樟腦工場、巡査駐在所など、瀬平がもともとの繁栄した時代は川根第二の都(川根家の次)と言われ、大正年間には戸数は八十戸を越えたという。

◎繁栄時に催された事

★明治十四年大相撲瀬沢湯所を開く(いけだ川関も来た)

★花火大会、明治十九年中の原で(お祭)大正十一年本村で(お祭)

★村松俊伺(嘉蔵翁息子)が洋楽団をつくり、幻燈機で、地区の人々に勉強や娯楽を習せた。

★日露戦争殉死者慰霊祭

★大正四年活動写真上映(弁師・楽隊付) など

◎地区衰退は何故? これほど栄えていた瀬平もやがて衰退の時をむかえ、主なる要因として

★大正十五年産業組合(スーパー)が出来、商人に勢い出た。

★大井川鉄道開通により舟と陸路の便が不用となった。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

★昭和六年五月四日大火事に見舞われ、地区の繁華街が灰と化する。

# 次女 晴れ



「白馬」に乗って、さうと行進する高本さんの「次女」大井川農協前徳山支店長栗原秀春さん（写真右手綱手）の愛馬、農協前の国道歩道付近にて

JAふれあい感謝祭の雑感

藤川 高本鷹一

支店長自らまさかの出迎えに

縹を正して舎前に佇まり

遙かなるあの懐かしき蹄音に

半世紀の夢甦り来る

遣れは去る八十セキ

組合旗を奉持して

高本鷹一

平成十三年十月十七日農協徳山支店ふれあい感謝祭に組合旗手として栗高奉持をする様う要請があり当日迎えに乗るとのお言葉に半信半疑で待つと、午前九時三十分朝、静寂を破り一頭の白馬が蹄音高く駐歩で到着した。真逆のお迎えに老骨、血は滾る果して乗馬未だであらうか、意を決して手綱を絞る鬃鬣を握って一気に跨る。乗れた。六十五年振りの感触が交り馬上の眺めのま糸晴し、見晴し満笑の歩道橋を往く、お祭り広場は最高潮、組合旗の入場により僅かならも色彩を添える事がお果たし、凡て一期一会終生、思いよと成る事とてしよ

眼の前の白馬の勇姿に魅了され、束の間には時は流れて帰路の刻、馬上に振り返る会場の華やき、待望の六十余年の夢叶い

調教士の人柄に似しかこの馬品、育ての愛情深く酌み見る、習志野の兵たり、日の物拂と、唯いとおしく項撫でやる、跨がれば乗馬の感、触確かなり

握る手綱に、氣心通う、天高く白馬の背に揺れながら、見晴らし満点の歩道橋往く、槍旗を持ち、思ひて組合旗を握る右手に力籠もれり

最高潮ふれあい広場は人の山、祭りのリズムに踊るか如し、栗原さん役目を離れてこの快挙、配慮の心は秋の大空

「二重橋通るを見たし」と言ひ、亡妻、今天国より眺め居るらん、融れあひも一期一会と思ひつ、馬との別れを惜しむ一時、帰り往く白馬の次女のいとおしく、る、感胸にじっと見送る

高本さんは、いる里通信第5号にて寄稿され、また、近衛騎兵聯隊、習志野野聯隊にて生死の境を体験された方です。今年、は、米馬を迎えられ、

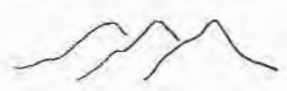
高本さんの直筆です。雑感の方も直筆で、載せられたのですが、物面のついで残念です。

筆者プロフィール

山田 部

- 大正11年2月11日 中川根村(町)に生れる。
- 昭和17年9月 明治大学専門部政治経済学科卒業。(学徒動員)
- 昭和17年10月 兵役に服し。昭和20年11月復員。
- 昭和22年2月 関東配電(株)に入社・本田技研工業(株)・丸正自動車製造(株)を転職し。
- 昭和36年10月 山田経営管理研究所を設立し。コンサルタント業を始める。
- 昭和40年3月 生家の酒販業を継承し現在に至る。
- 平成10年4月 大井川環境保全推進協議会の設立に参加し。現在同会の副会長を務める。

敗戦により復員後、滅失する川根の故事を後世に伝えるための資料を収集保存し、古稀を迎えて『川根交通経済史考』の草稿をまとめ、自費出版に進む段階にあるが、ここ数年間の大井川中流域の河川環境が悪化し、魚も住めず餌となる水生昆虫も絶滅の危機にあり、趣味の魚釣り(鮎・溪流魚)も出来ない状況に鑑みて、大井川を死んだ川にしないために『大井川ウォッチング』の行動を起して、源流から中流域を経て、沿岸域までの現況調査と河川環境改善への努力をしている。



ふる里通信の編者から、「全国的に自然が失われ、特に河川環境の悪化が言われる中で、その例外でない『母なる川』大井川』の現況を知らせることが大切だ」との依頼があり、筆をとることにしました。ここ数年大井川ウォッチング・シリーズとしてまとめた資料から、回を分けてレポートさせていただきます。

上長尾 山田 部



大井川の清流を考える 第一回

大井川を見つめて八十年

プロフィール

私は常々思いますが、「山があり木があり雨が降れば保水し、水は山を下って川となり、平地を流れて海に入る」この一連の水の流れを管理するのが治水であります。古老から治水は治山にありくと教えられてきました。

表現を変えて今一度申し上げますと、海の水が蒸発し、雨や雪となって地上に降りそそぎ、山があり森林があって保水し、雨水は山岳―平地を流れて川となり、最終的には海に至ります。水の循環のパイプが川であります。と同時に水は川や海への土砂を供給し、海から川への魚(鮎やうなぎなど)の遡上(さかのぼり)と、生物にとっても循環のパイプは川であります。

昔から山に木がなければ海に魚なしと言われ、江戸時代には魚付林―網代山と呼んで、漁民も為政者もその効用を信じていました。(それは沿岸水域への陸水の流入が魚の繁殖と保護に関係があったのではないだろうか。)

徳川幕政下の江戸時代には、治水は山・川・海の水系一貫の思想が、つらぬかれていきました。が、明治期に入り文化が進むとともに水系一貫は崩れはじめ、山は山・川は川・畑は畑・海は海とてんでに都合の良い(縦割り行政)産業振興が行われて、先述の魚付林や網代山の信仰も寂え忘れられはじめました。今一度、水資源をめぐって農・林・漁業・工業及び人々の生活が、バランスのとれた自然への対応を、改めて見る必要を感じるものであります。



知ることから全てがはじまる

### ―概念としての大井川について―①

「私達にとって川とは何んだらう」と考えることから筆を進めた  
いのですが、身近かに概念としての大井川を知ってもらうため  
に、大井川流域の移り変りと大井川の開発の歴史から入りたいと  
思います。

徳川の幕政以来政治の谷間となった大井川は、関所川と言わ  
れています。それは西の天竜川は信州へ長野県との交易があ  
り、東の富士川は甲州(山梨県)に通ずる交易の川であったこ  
とから通船と架橋が許されていきました。

行きつまりの標高三〇〇メートルを超える山々と閉塞谷の  
大井川は、江戸防衛の戦路上の必要から、西の新居の関所・東の  
箱根の関所の中間に、関所川として架橋も船の運行も禁じ  
られて川越の制度を布かれて、島田と金谷に川金所を設け、  
双方に五〇人余の川越人足がいたと記録されています。

大井川の川筋(川根)に何時から人が住み始めたかをさぐる  
昭和三十七年に中川根町上長尾遺跡(現中央小学校校庭)から、縄文時代  
の遮光器土偶がほぼ完全な形で発見されました。(現在東京国  
立博物館所蔵)このことから狩猟採集生活の時代で、焼畑を  
しながらそこに定着することなく、生活の場を替えて行った  
ものと思われる。

次に考えられるのは源平時代の落武者の陰棲(かくれ住い)と  
であり、川根地方にある歴史資料が示すとおりであります。

次いで室町・南北朝時代の交通路は、北朝方が今の東海道  
を押え、南朝方は大井川筋の山越えをして通行していたよ  
うです。それは川根地域に残されている民俗(生活風習)と  
芸能(神楽・踊り)や川根で使われている方言に含まれる京こ  
とによって推測されます。

今一つは徳川治政下の川越え制度で、島田―金谷間が増  
水時に川止めされ、記録によると一番長いときは二十一日間の川  
止めがあったと云われ、宿場が一杯になり路銀を使い果し、  
山越えや脇道をかきして川筋を上って川根に、あるいは川筋  
を下って海辺に住み着いた人々もあったと考えられます。

米やお茶の実が伝来し、川筋の沖積地(川が運んだ土砂が積も  
って出来た土地)に田圃が出来たり、焼畑が茶畑に変わっていた  
ことと考えられ、大井川のようなあはれ川は神として恐れら  
れていました。が、やがて恵を授ける母なる川として川辺に人  
人が住むことになったと思われる。

明治期の文明開化の波にのってローソクやアンドンの時代から  
エレキ(電気)の時代に進み火力発電から水力発電への動き  
がはじまり、事業家の見る目は大井川の天然の地形と年間  
四〇〇ミリを超える雨量のある水資源を利用することに着  
目して、日英同盟によって日露戦争を勝利の中で明治二十九  
年日英合併の日英水力電気(附)の設立となり、イギリス技術陣  
によって大井川上流域の調査と計画が進められました。

根島保村計画(最上流部・静岡・山梨両県)井川梅地計画  
(静岡市・本川根町)牛の首計画(本川根町)として発表されたが  
調査書と計画書を日本側に渡してイギリス側は撤退しま  
した。

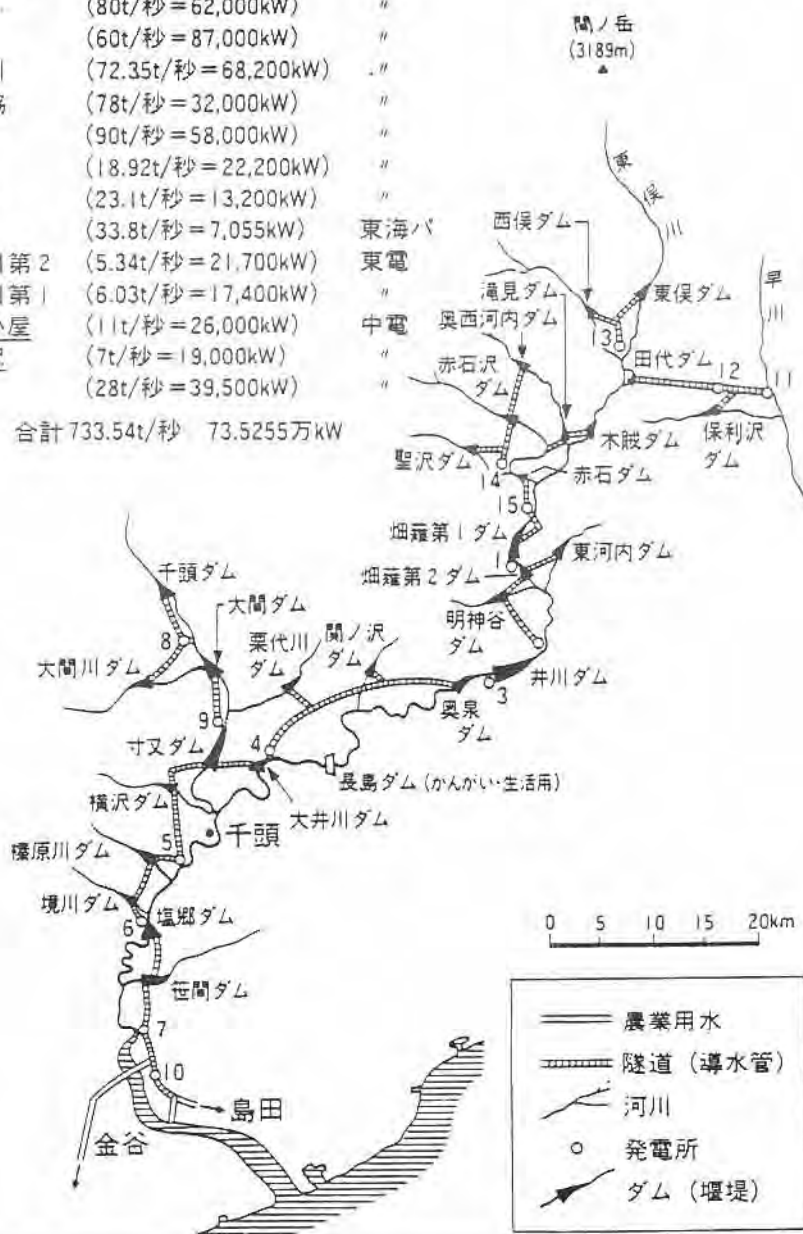
以来一〇〇年を経てもこの計画は生きつづけて、明治四三年  
に牛の首の日英水力電機(株)の小山発電所と東海物産(株)の地名  
発電所が完成し、以来現在の大井川には大小合せて二九の  
ダムと十五の発電所(合計出力七三〇五キロワット)が作ら  
れて稼働しています。

★次ページ大井川流域の発電所図表参照

# 大井川流域の発電所

	取水量	最大出力	
1 畑薙第1	(160t/秒 = 137,000kW)	中電	
2 畑薙第2	(60t/秒 = 85,000kW)	"	
3 井川	(80t/秒 = 62,000kW)	"	
4 奥泉	(60t/秒 = 87,000kW)	"	
5 大井川	(72.35t/秒 = 68,200kW)	"	
6 久野脇	(78t/秒 = 32,000kW)	"	
7 川口	(90t/秒 = 58,000kW)	"	
8 湯山	(18.92t/秒 = 22,200kW)	"	
9 大間	(23.1t/秒 = 13,200kW)	"	
10 赤松	(33.8t/秒 = 7,055kW)	東海バ 東電	
11 田代川第2	(5.34t/秒 = 21,700kW)	中電	
12 田代川第1	(6.03t/秒 = 17,400kW)	"	
13 二軒小屋	(11t/秒 = 26,000kW)	"	
4 赤石沢	(7t/秒 = 19,000kW)	"	
15 赤石	(28t/秒 = 39,500kW)	"	

合計 733.54t/秒 73.5255万kW



大井川流域は昔から森林資源の宝庫として、徳川幕府直轄の千頭山・井川山林からの木材の搬出は、みかん船で有名な紀の国屋文左衛門(当時三四歳の若者)が、江戸へ出て大金持になり、材木商に転身して幕府の御用商人となりました。

上野寛永寺の根本中堂(本堂)及び江戸城の修築材を大井川の流れにのせて島田に集め、木屋水門から板山川を流して和田浜(焼津)から江戸へ運んだのが始まりで、木材の搬出の手段として鉄砲堰による出材と木材の川狩りによ

る流送・筏による搬送や、明治以降は川船による物資の輸送がありました。

大正七年(この年は軽便鉄道の藤枝―相良を結ぶ藤相線が開通している。)藤相線の開通に刺激されたのか、大井川流域の森林資源の開発と水力発電の夢をのせて、安倍川支流の薬科川を逆上る、静岡―千頭間を結ぶ駿府鉄道の建設が計画されたが、工事費の関係で、東海道線島田駅起点で、大井川左岸を逆上する計画に変わり、次いで金谷を起点として、名称を大井川鉄道と変更して大正十五年に着工―昭和六年十二月に金谷―千頭間が完成しました。

大井川鉄道の開通によって電源開発に拍車がかかり、水利用のための取水ダムの建設は、川を堰止めることになり、流送による木材の搬出や、川船の運行も廃止を余儀なくされ、補償問題が発生して紛糾しました。が、満州事変、支那事変から太平洋戦争への突入による戦時体勢は、国家総動員法の発令となり、統制経済によって、補償問題



はらニヤ・ムニヤに於て結果的には国策会社の日本発送電機が勝つたことにはなりません。

昭和二十年八月の政戦と復興の中で、昭和二十五年南北朝鮮の動乱の勃発は、戦後の食糧増産と工業生産のための国土開発計画を推し進める転期となりました。

その国土開発計画によつて昭和二十六年、大井川総合開発計画が目論されて、大井川の水利用は大井川ダムを含む六つの発電所の新増設がまきまり、国営農業水利事業と広域水道事業が進められることになりました。

川口発電所に至るまでの大井川の水は、水利権ではなく所有権に近い型で電力会社に独占され、全長一八〇キロメートルの大井川の水は、一度も本川に決されることなく、約八〇キロメートルは山の中を導水管(トンネル)によつて、ダムとダムを継いで流下し、川面の表流水は小さな支流(大井川ダムより下流)と取水後の寸又川の水だけで、一度大雨が降ると大井川本川は放水路に变身し、川幅一杯の濁流は沿線の流木やビニール・空き缶・ペットボトル・工事用機材等のゴミを集めて駿河湾に流入し、沿岸域の海岸や漁港をふさぎ、沿岸の漁業者や海岸をいためつけています。

昭和三五年に川口発電所の取水を目的として作られた塩郷堤は、それを境に上流部と下流部に異状をもたらす、河原砂漠の出現など、河川環境の悪化を現出しています。

大井川には昔から〇〇瀬・〇〇淵・〇〇岩と云われた名所があり、海から洲上する鮎やうなぎの棲息の場所となり、魚釣りポイントでもありましたが、今では流入する土砂

によつて埋没し、見ることもできません。

反面、堰堤やダムによつて堆積され止められている土砂は沿岸域まで流れ出すことができず、昔の海山岸が現在侵食により後退し、砂浜のない海辺と波消しブロックが目立つようになりました。

遠州灘海山岸を含む榛南海山岸に上陸産卵する海亀(アカウミガメ)の生態にも異状ありと言われています。(この項 終り)



### 第二回の予告

治水権更新期を前にした水返せ運動

お私達にとつて川とはなんだろう(若干専門的に)

### 追伸

去る十二月十五日(日)テレビで秋田の鱈魚の状況を紹介した。その中に「森林は海の宝物」という表現で、漁師の人達が山に木の苗(ここでは樺の木だ)を植えているところを放映した。

これが江戸時代から言われる魚付林―網代山のことだと実証・考へた。

### 編集室より

昨年までの動まで大井川の流れを取りもどそうとする展開が各所(自治体・議会・民間など)されております。その中で、山田さんが踏査研究された事が重要な資料として又、ご本人の講演されて活躍しております。これから先の熱筆に期待下さい。

東京のかたすみから(三六)

テレビの始めから終りまで

### 裁判ビデオの制作

渡邊 實夫

東京電力が原子力発電所の多数のひび割れ事故をかくすために、ビデオテープを編集して損傷部分をカット(隠蔽)していたと内部告発された。まさにビデオ編集技術の悪用である。

### ビデオ編集や切り張り

東電改ざんの手口判明

東京電力の点検記録改ざんの切り張りなどをまかされると、一九八九年、福島第一原発で、経済産業省の調査過程審査委員会が十三日、東京から自主検査を開けのひび割れでは、損傷部分開かれ、原子力安全・保安負ったセナル・エレクトが映らないように編集した手を加えていた。

東京電力の点検記録改ざんの切り張りなどをまかされると、一九八九年、福島第一原発で、経済産業省の調査過程審査委員会が十三日、東京から自主検査を開けのひび割れでは、損傷部分開かれ、原子力安全・保安負ったセナル・エレクトが映らないように編集した手を加えていた。また、蒸気乾燥機そのものが、本来と百八十度異なる方向に取り付けられていた。この件では、G.E.の報告する方向に削除されたり、自主点検の報告書(G.E.)元社員告発による録音をもとにした日本語版をなすこと、記録から削除された。

読売新聞 1989年9月13日 14年9月13日 読売新聞

ところで、私が裁判用ビデオの証拠づくりの制作に技術参加したのは、定年間際、テレビ朝日の関連プロジェクトへ取締役ビデオ技術部長として出向した時である。

私の日課はビデオ作りをしている現場(スタジオ、ロケーション、編集室など)を回るが仕事であった。当時はワイドショー番組のネタ作りが殆んどであり、スタッフは明るい雰囲気の中で、おもしろおかしく楽しみながらやっていた。

昭和六二年の秋、ビデオセンターへ回って行ったときのこと、異様に静かな雰囲気の中、ネクタイ、スーツ姿で品のよい六、七人の一団が、行儀よく調整卓に向かってビデオづくりをしていた。

実はこの一団は若手弁護士集団であって、ロッキード事件で

有罪となった元総理大臣田中角栄氏の無罪を信じ、判決を覆すための手段として、証拠のビデオを作ろうとしていた。それをもって最高裁判所へ上告するはずであった。

大疑獄事件といわれた、五億円の収賄で田中角栄氏は昭和五一年七月二七日に逮捕、五八年一〇月二日、裁判の一審判決で、懲役四年追徴金五億円の有罪となっていた。

頭の良さやうな若手弁護士の一団に、私は関心をもち、彼等からいろいろ学べるなと思って、進んで徹夜作業に従事した。

弁護士たち法曹界では「法事件のことは他に喋らない」という不文律があり、口が堅かった。

私は弁護士と一緒に仕事をするのは初めてで、大変に興味をもち、どんな話をするのか耳を澄まして聴くようにした。

1. 裁判に使ってくれるかどうかは裁判官次第である。彼らが生殺与奪の権を握っている。

2. 今回はわれわれのビデオを信用してもらわなければ困るが、逆にあらゆるビデオを信用して取り上げ、間違いを起こされるのも怖い。

3. 田中元総理は知情意を兼ね備え、百年に一人という立派な政治家であること、世に上いられるような悪徳政治家ではない、無罪を確信している。

以上のような事柄を彼らの言動から察知した。

その中に美人の弁護士、淡谷まり子さん(歌手淡谷のりこの姪に当たる)がいた。私の関心はなぜか彼女の挙動に興味をもった。静かな品位のある美しい彼女の徹夜作業の姿にひかれた。――また私が現役で若かったせいだろうか――。

彼女は常に社会の動きに気を配っているらしく、明け方になると早期配達になる新聞各紙を、立ったまま早読みしていった。私もその時から早読みするようになった。

話は元にもどして、五億円のうち三回目に渡したと言われる昭  
和四九年一月二日の東京の天気は大雪で、目白の田中私邸への  
搬入は道路状況上不可能に近いと推測される。検事調書には  
天候に関しての記載はなにもなかった。  
弁護団としては次の運転記録を参考にして、検事の捜査  
は「ずさんで、押しつけによる空疎な間違いである」と指摘  
して、無罪を勝ち取るうとしていたのである。

自動車行動表  
昭和四十九年一月二日

氏名: 田中 功次郎  
住所: 東京都目白区  
運転免許番号: 東京都 100-100-100

出発時刻	目的地	乗車人数	乗車場所	備考
7:00	目白	1	自宅	
7:15	池袋	1	池袋駅	
7:30	池袋	1	池袋駅	
7:45	池袋	1	池袋駅	
8:00	池袋	1	池袋駅	
8:15	池袋	1	池袋駅	
8:30	池袋	1	池袋駅	
8:45	池袋	1	池袋駅	
9:00	池袋	1	池袋駅	
9:15	池袋	1	池袋駅	
9:30	池袋	1	池袋駅	
9:45	池袋	1	池袋駅	
10:00	池袋	1	池袋駅	
10:15	池袋	1	池袋駅	
10:30	池袋	1	池袋駅	
10:45	池袋	1	池袋駅	
11:00	池袋	1	池袋駅	
11:15	池袋	1	池袋駅	
11:30	池袋	1	池袋駅	
11:45	池袋	1	池袋駅	
12:00	池袋	1	池袋駅	
12:15	池袋	1	池袋駅	
12:30	池袋	1	池袋駅	
12:45	池袋	1	池袋駅	
13:00	池袋	1	池袋駅	
13:15	池袋	1	池袋駅	
13:30	池袋	1	池袋駅	
13:45	池袋	1	池袋駅	
14:00	池袋	1	池袋駅	
14:15	池袋	1	池袋駅	
14:30	池袋	1	池袋駅	
14:45	池袋	1	池袋駅	
15:00	池袋	1	池袋駅	
15:15	池袋	1	池袋駅	
15:30	池袋	1	池袋駅	
15:45	池袋	1	池袋駅	
16:00	池袋	1	池袋駅	
16:15	池袋	1	池袋駅	
16:30	池袋	1	池袋駅	
16:45	池袋	1	池袋駅	
17:00	池袋	1	池袋駅	
17:15	池袋	1	池袋駅	
17:30	池袋	1	池袋駅	
17:45	池袋	1	池袋駅	
18:00	池袋	1	池袋駅	
18:15	池袋	1	池袋駅	
18:30	池袋	1	池袋駅	
18:45	池袋	1	池袋駅	
19:00	池袋	1	池袋駅	
19:15	池袋	1	池袋駅	
19:30	池袋	1	池袋駅	
19:45	池袋	1	池袋駅	
20:00	池袋	1	池袋駅	
20:15	池袋	1	池袋駅	
20:30	池袋	1	池袋駅	
20:45	池袋	1	池袋駅	
21:00	池袋	1	池袋駅	
21:15	池袋	1	池袋駅	
21:30	池袋	1	池袋駅	
21:45	池袋	1	池袋駅	
22:00	池袋	1	池袋駅	
22:15	池袋	1	池袋駅	
22:30	池袋	1	池袋駅	
22:45	池袋	1	池袋駅	
23:00	池袋	1	池袋駅	
23:15	池袋	1	池袋駅	
23:30	池袋	1	池袋駅	
23:45	池袋	1	池袋駅	
24:00	池袋	1	池袋駅	

●第三回目の授受があったとされる日の自動車行動表

授受当日の天候や出来事と、新聞の縮小版と気象庁で調べた結果、『東京の天気は暴風雪から大雪に変わり、夕方から都内の高速道路が閉鎖され、交通渋滞を起し、多数の車が立ち往生していた』ことが分かった。  
この条件下で、一億二千五百万円分の一百万札が入った約二十キロ弱のダンボール箱を、ホテルオオクラから目白の田

中邸へ、どのようにして搬入出来たのか？。運搬経路について、どの道を通るとどのくらい時間で往復できるか、何度か自動車も走らせて実験し、ルートと時間を計りながらビデオとりをえた。

このビデオ制作の監修(企画、演出、制作)は前記の若手弁護団によるもので、われわれは、その技術操作に従事し徹夜作業を繰り返した。

弁護団は証拠のビデオづくりをして、最高裁で無罪を勝ち取るうとしたが、田中氏は不幸にも脑梗塞で倒れ、被告人の身分のまま平成五年十二月十六日逝去した。裁判は死亡により控訴棄却となり終結した。

ビデオの証拠の問題は編集だけでなく、新世代ビデオといわれるバーチャルスタジオ(仮想ビデオ)まで開発、出現している。今日、ビデオ採用には、科学的・論理的考察力(ビデオの見方)が要求される時代になっている。

(平成十四年十二月八日 記)

- 参考
1. 判例タイムズ一九九四・五・一。
  2. 犯行再現ビデオテープの証拠能力『東京高裁昭和六二年五月九日判決』……原審は弁護人の異議に対し、ビデオを有罪認定の証拠とした。
  3. 弁護士木村喜助著「田中角栄の真実」……弁護人から見たロッキート事件。

編集室より

渡邊さんの寄稿して下さっている。テレビの始の顔になっております。二月一日のテレビ初放映から五十年とNHKの特集を組んでおります。報道が映像にて伝えられるテレビの重要性は今後も続くものと思っております。今後も東京発の寄稿、期待します。

# 老後を想う

## クスリになる食品…私の実践

静岡市 西田 享司

老後の健康への取組みは人々々々ですが、取り分け健康食品へのアプローチは、独引ともとれる宣伝販売の元、過熱しています。

この頃、ダイエット健康食品などには、肝臓への危害のある成分が含まれていると報じられ物騒です。さて、子供の頃から虚弱だった私は、脱サラして頃から健康食品や健康器具に、人一倍関心をもつようになりました。

そして、試行錯誤といいますが、毎日の常食として定着していったのが、アロエの生かじりと人參ジュースです。前者は約十五年前から、そして後者は約十年前から続けています。近年贅沢三味の食生活の中で、野菜不足が叫ばれた頃で、比較的野菜嫌いな私にとって、緑黄色野菜でクスリになる食品は、自分で料理ができて新鮮で格好の食品でした。

私はドリンク剤や市場に流通している健康食品は、全くというほど口にしません。

そうです。川根茶も広い意味で緑黄色野菜です。緑茶

に含まれるビタミンC、カフェイン、タンニ

ン、カテキン等の成分から、近年抗がん剤、動脈硬化、虫菌抗菌など十指

にのぼる効用が証明されていますが、

私は毎日の食事の後の「煎茶」を味

わって飲ませていたにいます。



さて話を戻しますが、アロエの

生かじりは、アロエ葉を両側のト

ゲを切り取って、3x4cm角位に

して、水洗いして、苦みがあるので

二、三回嚙んで一気に飲み込みます。

朝食前後一日一回ですが、今では人參

ジュースと一緒に飲んでいきます。兎に角、

継続が大事なので、外国旅行でもアロエ葉を弁当箱に詰めて持参したほどです。

アロエは日本ではキダチアロエのことで、今、自宅前庭

に一坪近く栽培しています。アロエの効用は「医者いらず」と云われるほどの能で、苦みの主成分アロインを初

め、多くのアロエ成分により整腸作用、便秘、抗ガン、血

糖値降下、二日酔いややけど、切り傷等に効用があると

されています。

一方の人參ジュースはジュースで搾って汁をコップ一杯

毎朝飲むことになっています。

人參一本を皮むき器で皮を薄く取り、乱切りにして

それにりんご一個を皮ごと水洗いして適当にきざんで一

諸にジュースで搾ります。人參だけよりは栄養も豊富

で、味もりんごの甘さのほうがさで飲み易くなります。但し、

双方共酸化するので、保存法が大事です。

人參の成分ビタミンAは貧血、疲労回復又ガン予防

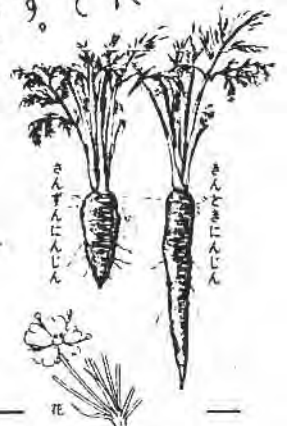
にも効果があるとされています。

一方りんごはペクチンを豊富に含み、それが整腸作用

や便秘の毒を取り除くとされ、又体内の塩分を排出する

カリウムも豊富で血圧に効果があるとされています。

以上述べさせていた成分や効能は専門書の丸かじ





西田さんのお家にかざられた、垂れ幕

追伸

私ですが、よく「信ずる者は救われる」と云われますが、論より証拠です。十、十五年間の細やかな実践が、自分の体質改善に役立っていると自負する一方、今日も又明日への糧になるよう続けることにしています。  
 ここ二十年近く休まず働らき通せたのは、以前の自分として奇跡にも思えることです。  
 正に私にとって「アロ工様」「人參様」「りんご様」です。  
 又最後の一句ですが  
 私の信仰心「神様」「仙様」「煎茶様」

徳 山 出 身

昨日(十一月四日)朝、思い立ったように家内と一緒に紅葉の川根路に向け車を進めました。  
 お申し越しの上長尾での産業文化祭を十一時頃から正



午頃まで見学させていただきました。  
 会場は驚くほど賑やかで、特に体育館での展示品のレベルの高さには、感心致しました。中学時代の同級生とも出会いました。ミニ食べ物もバザーで買わせていただき、ながつかさんに挨拶して足早やに帰りました。  
 その帰り際、川原の駐車場へ向っている時に火花が上がり、落下傘付きの垂れ幕が大井川に落ち、私の目の前でもあり、誰れも拾おうとする人がいなかったため、拾って持ち帰らせていただきました。  
 帰り道は千頭へ立ち寄り、山越えて(国道三六二号線)夕方五時には家に帰りました。  
 さて同封の写真は我が家の応接間に垂れ幕を吊して写真に納めました。……

西田さんより「老後を想う」の原稿をいただいたのは、62号編集の中で、同氏がページ数オーバーの為、63号に載せさせていただきました。奇しくもパラシート付垂れ幕が西田さんの手に拾われたとお便りも同封させていただくことにいたしました。ありがとうございます。  
 ↑産業文化祭 中川根ふる里通信のコーナーもみらき、ヨリ。創刊から16号までの母校は今、シリーズも再版しました。寄って下さった皆さん、ありがとうございます。

## 定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 〒共 200円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(3ヶ月ごと)を予定しています。

購読料は郵便振替口座をご利用下さい。1年分200円(4回)、15回分位まで(3,000円)お預り出来ます。

購読が切れた方には振替用紙を同封致しますから、ご利用下さい。

もし、購読を止めたい時や、住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

郵便振替通知票番号

00870-4-81556

発行責任者 〒428-0313

静岡県榛原郡中川根町上長尾859-8

川 沢 節 子

TEL. 0547-56-0015

FAX 0547-56-0020



今年にはニューわかふじ国体が静岡県で開かれますね。中川根町が会場になる種目は残念ながらありませんが、本川根町はカヌーの会場になります。長島ダムと大井川のニヶ所となるようですが、せめてその時には大井川に湯々と水が流れてほしいと願っております。国体の相乗効果でどうか、川根高校生や町民がカヌー競技で優秀な成績をおさめて



十二月十五日頃からとりのかりきりした63号が、なかなか完成できず、とうとう一月も終ってしまいました。何と用事が多い事、いやいや仕事のまわしが悪い事と、年を重ねた事が原因でありますから、本当に申しわけありません。その間に、町も県も国も世界もめまぐるしく動いておりますから、遅れ遅れの情報となっておりますが、ふる里通信ならではのお便りにしたいと考えておりますから、今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



二月八日、九日に中川根町で「火の見櫓サミット」が開かれます。全国から火の見櫓関係の人々が集まって来るそうです。川根地域は分解地区が多い為、全国でも火の見櫓の数が多かったり、多い地域だそうです。又、櫓の屋根の形も本川根町、中川根町、川根町と少しずつ違って来るそうです。のぞいてみて、報告したいと思います。ことごとくになって、放火と思われる山火事(ボヤですんでいる)が続いています。早く解決し、ほいほいものです。



約46年前、静岡県国体が行われた時、私は中学一年生で、聖火リレーがあり、今は亡き川井先生を中心に、青年団の方々が国体旗を持って走った様に記憶しております。その時に「朝焼けの富士を目指して、舞い立つ小鳩、羽ばたく羽翼、我らとびゆく光の子、あふれわく希望を乗せて、歌声は、歌声は、歌声は、森を林をかけてくよ」という歌を元気に歌ったように記憶しております。あれは国体の歌だったのかなーと思っております。



おりますから頼もしいことです。

その他、昔は、静岡県の子役達が歌う歌がありました。

「ひとつ、ひよりは雲の上、雲の上、ふたつ富士山の晴れ渡り、風呂水汲みましまし、はねつるべはねつるべ、みつみかん

の花ざかり、花ざかり、みつ峰くま蜂飛んでゆけく、海の子海の子くじけちやいけな、父さん兄さんい

くなつてもよ、勇気をあして頑張りぬくんた、懐しく思ひ出してみさした、あの頃、皆んな貧しかった、周囲が全て同じ状態だったので、これが当たり前と思ひ、その中で元気に住いたものだった、これは子役の見た目、世をささえる大人の人の苦勞はいかばかりかと思ふ次第です。